

「市民参加懇談会 in 青森」開催計画 (案)

1. 開催趣旨

原子力に対して、国民の信頼を確立するためには、国民に知りたい情報が届いているのかがその大前提となる。そこで核燃料サイクルを含めた日本の原子力に関する最近のさまざまな状況に対して、「どこに問題があるのか」、「徹底的な情報公開とは」、「透明性の確保とは」という観点から、広くご意見をうかがう。

2. テーマ 「知りたい情報は届いていますか」 - 核燃料サイクルを考える -

3. 開催日時 3月15日(土) 13:00~16:30

4. 会場 男女共同参画プラザ カダール(定員250名)
青森県青森市新町1-3-7

5. 主催 内閣府 原子力委員会市民参加懇談会

6. プログラム

1) 司会 原子力委員会事務局

2) 挨拶および報告 市民参加懇談会 木元座長

報告：日本の原子力(核燃料サイクル等)を巡る状況について
日本原燃(株)、原子力安全・保安院、資源エネルギー庁は第1部、
第2部も含め、求められたときに説明

3) 第1部 パネルディスカッション(約1時間30分・予定)

〔パネリスト(予定)〕

芦野英子 氏	エッセイスト
近藤駿介 氏	東京大学大学院教授
蟹瀬誠一 氏	キャスター・ジャーナリスト

〔司会・進行(予定)〕

中村浩美 氏 科学ジャーナリスト

4) 第2部 会場参加者からご意見を聴く会(約2時間・予定)

〔司会・進行〕参加コアメンバーから2名

〔コアメンバー(予定)〕

碧海酉葵 氏	消費生活アドバイザー
井上チイ子氏	生活情報評論家(NPO法人 暮らし、環境、 エネルギーネット理事長)
小川順子 氏	WIN-Japan会長
加藤秀樹 氏	構想日本代表
中村浩美 氏	科学ジャーナリスト
松田美夜子氏	生活環境評論家(廃棄物とリサイクル)
吉岡 斉 氏	九州大学大学院比較社会文化研究院教授

日本の原子力（核燃料サイクル等）を巡る状況について（案）

（座長報告）

平成 15 年 3 月 15 日
原子力委員会
市民参加懇談会

- | | | |
|---------|------|--|
| 昭和 31 年 | 9 月 | 第 1 回原子力長期計画が発表され、これに基づき日本原子力研究所を中心に再処理の基礎的研究を開始 |
| 昭和 36 年 | 2 月 | 原子力長期計画でプルサーマルの実用化を記述 |
| 昭和 52 年 | 9 月 | 動力炉・核燃料開発事業団の東海再処理工場で再処理開始 |
| 平成 4 年 | 3 月 | 日本原燃産業(株)がウラン濃縮工場操業開始 |
| 平成 4 年 | 12 月 | 日本原燃(株)が低レベル放射性廃棄物埋設センター操業開始 |
| 平成 5 年 | 4 月 | 日本原燃(株)が再処理工場建設工事着工 |
| 平成 7 年 | 4 月 | 日本原燃(株)が高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター操業開始 |
| 平成 7 年 | 12 月 | 高速増殖原型炉「もんじゅ」が 40%出力試験中に 2 次系ナトリウム漏えい事故 |
| 平成 9 年 | 1 月 | 原子力委員会「当面の核燃料サイクルの具体的な施策について」を決定し、2 月に閣議了解 |
| 平成 9 年 | 2 月 | 電気事業連合会が電力 11 社のプルサーマル全体計画を発表 |
| 平成 11 年 | 9 月 | 関西電力(株)が BNF L 社製 MOX 燃料のデータ改ざんの疑いを公表 |
| 平成 11 年 | 9 月 | (株)JCO 東海村ウラン加工工場が臨界事故 |
| 平成 13 年 | 5 月 | 柏崎刈羽発電所でのプルサーマル計画受入の是非を問う刈羽村住民投票で賛成票：1533 票、反対票：1925 票で反対票が投票総数の 53.40%（過半数）を占める |

- 平成13年12月 日本原燃(株) 再処理工場の燃料貯蔵プールの漏えい装置による出水検出を公表
- 平成14年 8月 原子力安全・保安院および東京電力(株)が1980年代後半から90年代にかけて自主点検作業記録などに虚偽の記載などが行われた疑いを公表
- 平成14年 9月 新潟県知事、柏崎市長、刈羽村村長による3者会談でプルサーマル計画事前了解の取り消しを合意
- 平成14年 9月 福島県知事が県議会でプルサーマル計画の白紙撤回を表明
- 平成15年 1月 高速増殖原型炉「もんじゅ」設置許可取り消し行政訴訟で名古屋高等裁判所が無効判決

日本原燃(株)の使用済受入れ・貯蔵施設の
PWR燃料貯蔵プール水漏えいについて(案)
(座長報告)

(プレス時期)

(プレス内容)

- 平成13年12月 PWR燃料貯蔵プール漏えい検知装置による出水検出を確認し、原因調査を開始
- 平成14年 2月 調査の結果、PWR燃料貯蔵プール北壁部(西側)のプールライニングプレート部からの漏えいと判断
- 平成14年 6月 プール壁面の最下段横方向の溶接部に漏えい場所があることが判明
- 平成14年 9月 ライニングの一部を原因調査試験片として切り出し、社外研究施設で調査・分析した結果、貫通した欠陥が確認できなかったため、再度、漏えい箇所特定調査を開始
- 平成14年10月 全溶接部の調査の結果、床面の溶接部(熱影響部を含む)に漏えい欠陥を確認
- 平成14年11月 床面の溶接部の漏えい欠陥箇所を切り出し、社外研究施設で調査・分析した結果、本来底部ライニングプレートが直接埋込金物と溶接されるべきところ、表面のみを溶接し、継ぎ足された部材があることを確認
- 平成14年12月
- ・専門メーカー現場指導員の聞き取り調査で燃料仮置きピット(A)壁面ライニングプレートにおいて計画外の溶接を行ったとの情報があった
 - ・使用済燃料受入れ・貯蔵施設においてライニングプレート構造をもつ設備(14基)のプール水等に接する全ての部位、そして再処理施設本体においてライニングプレート構造を持つ貯槽(25基)の貯留する液体が接する全ての部位に対し、計画外の溶接部が存在しないか点検を開始
- 平成15年 2月 使用済燃料受入れ・貯蔵施設内燃料送しピットの漏えい検知装置による出水を確認し、調査した結果、当該エリア東側壁面溶接部近傍1箇所からの漏えいと判断。聞き取り調査では当該部で計画外の溶接等漏えいに繋がるような施工をおこなったとの情報はない。